

議 事 録

<p>会議名 平成24年度 第2回 第三次町田市地域福祉活動計画 推進委員会</p>	<p>開催日時 自：14時00分 平成25年2月6日（金） 至：16時10分</p>
<p>出席者 11名 会長・常務 事務局</p>	<p>小野敏明・高橋協子・島峯紀子・服部くに子・稲木健志・谷和久・ 田部井眞・田中瑤子・市川恵子・興野安雄・中村肇 佐々木のり・白井満里子 坪野法人運営室長・鍵溝地域福祉推進室長・久保田事業室長 井上主幹・鳥居主幹・星統括主査・永田統括主査・井藤主査 荒木主査・宮本主査</p>
<p>配布資料</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第2回委員会次第 2 基本計画まとめシート 3 取り組みの視点別成果判断シート 4 重点計画シート 5 事務局体制表 	
<p>開 会 常 務 挨 拶 委 員 長 事 務 局 田 部 井 委 員 事 務 局 委 員 長</p>	<p>法人運営室長は、定刻となったので開会を告げた。 常務は、出席委員に参集のお礼を述べ、第三次町田市地域福祉活動計画推進に対しての協力を依頼した。 委員長は、最近の動向として、厚労省の社会保障審議会が検討を行っている、生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会の動きについて報告を行った。 続いて、24年度の活動計画の取り組み評価に入るため、基本計画まとめシートごとに取り組み報告を事務局に求めた。 事務局は基本計画1-1に関する報告を行った。 「研修参加人数の減少についての分析はどの様にしているのか」 「今年度は年6回開催し、内1回は新人職員を対象にしたものを開催した。開催時間は平日19時から21時で開催したが、テーマによって、平日の昼間に開催するなど検証をしている。研修テーマについては、これまでと違った内容にすべきであったと反省している」 「最近は、土曜日も開所している事業所もあるので、開催日等の</p>

議 事 録

	選定は難しい」
谷 委 員	「研修は、色々なところから案内が来ており、介護人材開発センター等からの案内も多く、内容も充実している。すべての研修に参加させることはできないので、絞って参加させているが、専門的な研修は充実しているのもっとインフォーマルな活動をしている人達に向けた研修を充実させた方が良いのではないか」
委 員 長	「それは、これから福祉の職に就きたい人達ということか」
谷 委 員	「その様な人を対象とした研修は既に実施している」
事 務 局	「社協としては、専門分野に特化した研修ではなく、福祉に携わる職員全般を対象とした、組織育成に繋がる様な研修を行っていきたいと考えている」
谷 委 員	「福祉業界は全体的に人材不足なので、幅広いテーマの研修を実施するのは良い事だと思う」
委 員 長	「同じテーマで2週開催するというようなやり方は考えられないか」
谷 委 員	「早く案内があれば、調整できるのではないかと思う」
委 員 長	「共通したテーマであり、参加者に訴えて行く様なテーマであることが大切」
田 部 井 委 員	「都の人材センターでは、階層別研修会を既に開催している。同じ内容が町田で開催されるならば良いと思うが、単発では意味が無いと思う。研修に行く職員はどうしても行かされた感がある。成果を評価するのは人数や回数ではなく、それ以外で評価できるようなものも必要なのではないか」
委 員 長	基本計画1-1に関する質疑が他になかったので、委員長は基本計画1-2に関する報告を事務局に求めた。
事 務 局	事務局は基本計画1-2についての説明を行った。
稲 木 委 員	「まちカフェで、個人情報について取り組んだと報告されているが、社協としては、いつからまちカフェに参加しているのか」
事 務 局	「3、4年前からボランティアセンターとしてボランティアをテ

議 事 録

稲 木 委 員	<p>一マに参加していた。以前から町内会関係の方から、個人情報テーマにした話を希望されていたこともあったため、市民協働推進課との打ち合わせなどでも検討し、今年度は個人情報をテーマにして参加した」</p> <p>「まちカフェで個人情報をテーマにした内容はすぐわかない様に感じた。時間的にも中途半端な感じで終わったような気がする」</p>
委 員 長	<p>基本計画 1 - 2 に関する質疑が他になかったので、委員長は基本計画 2 - 1 に関する報告を事務局に求めた。</p>
事 務 局	<p>事務局は基本計画 2 - 1 についての説明を行った。</p>
服 部 委 員	<p>「部会として、地区社協の説明に参加しているが、防災に関する関心は高いが、地区社協という名前が硬い様に感じる」</p>
稲 木 委 員	<p>「参加者の関心度はどうなのか」</p>
服 部 委 員	<p>「参加者の関心は高いと感じる」</p>
島 峯 委 員	<p>「地域差もある様に感じられる」</p>
稲 木 委 員	<p>「地区社協が言われるようになってだいぶ経つが、なかなか進まない。場所もなかなか無くて厳しい」</p>
中 村 委 員	<p>「南町田は地区社協の方向で準備をしている。挨拶運動や地域の課題を今後も話し合っていくことで進んでいくのではないかと思う」</p>
稲 木 委 員	<p>「どの様なメンバーで進めているのか。核となるのはどの様な団体か」</p>
中 村 委 員	<p>「福祉施設、PTA、自治会、民生委員などであり、核となるのは自治会や民生委員です」</p>
副 委 員 長	<p>「リーダーがいると進んで行きやすいが、地区社協という言葉のイメージから硬く考えてしまいがち。もう少し柔らかいイメージで捉えてもらえるとよいが」</p>
島 峯 委 員	<p>「玉川学園の地区社協も拠点確保は難しかった。拠点が無いとなかなか活動が進まない」</p>
委 員 長	<p>「システムを作ってそれを運営するのが地区社協という形にす</p>

議 事 録

	<p>る方が、住民にとって地区社協としての機能が分かりやすいと思う」</p>
市 川 委 員	<p>「イメージが湧かない人には、なかなか地区社協について説明するのは難しい」</p>
委 員 長	<p>「地区社協が出来ても活動が無いとだめ」</p>
島 峯 委 員	<p>「玉川学園の地区社協ではアンケートを取る等して、住民のニーズ把握をして活動を行っている」</p>
委 員 長	<p>基本計画 2-1 に関する質疑が他になかったので、委員長は基本計画 2-2 に関する報告を事務局に求めた。</p>
事 務 局	<p>事務局は基本計画 2-2 についての説明を行った。</p>
稲 木 委 員	<p>「配分を受けたことが無い団体とはどのような団体のことか」</p>
事 務 局	<p>「ボランティア活動や地域福祉活動をしていても、まだ歳末配分を申請したことが無い団体が有ると思われる。ここではその様な団体を指している」</p>
市 川 委 員	<p>「歳末の配分は、募金とセットで PR しており、募金協力をしていない団体に配分だけをする必要はないのではないか」</p>
事 務 局	<p>「歳末たすけあいの PR は、町内会自治会を中心として、主として回覧によるものとしているため、回覧等を見る環境にない人達もいると思われる。また、自分たちの活動と配分申請が結びつかないで活動している団体もあるのではないかと思われるため、これからも配分に関する PR は必要と考えている」</p>
市 川 委 員	<p>「周知は重要であると捉えているが、PR をすでに行っている現状もあり、必要以上にすることはしないのではないか。団体にとって必要だと考えれば、自ら申請を行うのではないか」</p>
稲 木 委 員	<p>「わざわざ掘り起こしをする必要はないと思う」</p>
田 部 井 委 員	<p>「配分金となる原資の割合はどのようになっているのか」</p>
稲 木 委 員	<p>「圧倒的に町内会自治会からの募金によって賄われている」</p>
田 部 井 委 員	<p>「町内会自治会に対して配分はあるのか」</p>

議 事 録

事 務 局	「町内会自治会と言うだけでは配分の対象とはならない」
田 部 井 委 員	「事務局が掘り起こしを考えているのは、掘り起こした団体が募金に取り組み、結果募金額も増えることを想定していると考えてよいか」
事 務 局	「配分には基準を設け、募金協力した団体には配分額に加算を付けることをしている」
市 川 委 員	「配分を受けた団体を広報するのは必要だが、手段をあれこれ考えるのはいかがなものか」
事 務 局	「以前は配分した団体の広報も行ってた」
事 務 局	「今年度は申請団体72件中、対象外は2件。今までは募金協力は少なかったが、今年は募金協力もしていただいた」
委 員 長	「歳末たすけあいの募金募集時に、活動のPRは必要であると思う」
委 員 長	基本計画2-2に関する質疑が他になかったので、委員長は基本計画3-1に関する報告を事務局に求めた。
事 務 局	事務局は基本計画3-1についての説明を行った。
市 川 委 員	「公的制度外サービスの具体的なイメージは何か」
事 務 局	「サービスの狭間の人に対するサービスの提供が求められているが、障がいの分野でいえば、せりがやでは「仲間の家」を運営しており、レスパイトサービスの提供について可能性を探るための検討を行っているところである」
服 部 委 員	「レスパイトサービスは、念願である。いざという時に預けられる所があるというだけで心強い。是非作ってほしい」
事 務 局	「現状でも申し込みの際は理由を聞かずに対応しており、かなり柔軟な対応を行っているが、レスパイトとして事業検討していく際には、職員配置等の体制整備も検討していく必要がある。また、ニーズの分析やすでに同様のサービス提供団体がある中で、本会の役割の整理も必要だと考えている」

議 事 録

田 部 井 委 員	「現在仲間の家は送迎を行っているのか」
事 務 局	「送迎は実施していない」
委 員 長	「市からの委託事業なのか」
事 務 局	「補助事業である」
田 中 委 員	「高齢者世帯では、家族がいるとヘルパーの利用が出来ないなどの制限があり、やはりサービスの狭間の人達のニーズは多い。私に取り組んでいる活動でも、ケアマネから介護サービスが利用できない高齢者への対応として依頼されることがとても多い。社協として、制度では対応できないような人を支えて欲しい」
委 員 長	「レスパイトは高齢者も対象なのか」
事 務 局	「現状年齢区分はないが、状態として、障がいをお持ちの方を対象としている」
委 員 長	基本計画 3-1 に関する質疑が他になかったので、委員長は基本計画 3-2 に関する報告を事務局に求めた。
事 務 局	事務局は基本計画 3-2 についての説明を行った。
高 橋 委 員	「コミュニティソーシャルワーカー像はどの様なものか」
事 務 局	「8つの視点を持った職員として現在「案」を整理している」
田 部 井 委 員	「障がいをお持ちの方が65歳で介護保険制度利用に替わる際にシームレスに切り替えが出来る様な相談支援や、幼児期に対応できる相談支援等は今の市の対応は弱い。複合的な課題を抱えた方の相談に対応することは役割としてとても大きい。社協として、生活困窮者への支援については是非関わってほしい」
委 員 長	「相談支援については社協財源となる会費、共同募金などでPRしやすく目に見える事業と言える。このような事業を実施することで会費も集めやすくなるのではないか」
委 員 長	基本計画 3-2 に関する質疑が他になかったので、基本計画まとめシートの説明はすべて終了した。委員長は続いて重点事業 1, 2, 3 についての報告を事務局に求めた。

議 事 録

事 務 局	事務局は重点事業 1, 2, 3 についての説明を行った。
田 部 井 委 員	(重点事業 3 についての質疑)「金融機関からの送付希望があった理由は何か」
事 務 局	「送付していた資料の残数が減ってきたことによるものである」
田 部 井 委 員	「親族後見による不正が起きたりしているが、成年後見制度支援信託等を活用することにより財産の適正な管理ができるので、成年後見制度と支援信託をセットにして PR するなど、広報の仕方を工夫することにより、成年後見制度活用に繋がるのではないか」
事 務 局	「市民向け説明会では、支援信託の相談もあるが、現状では、財産はあまり無い状況で、成年後見制度利用を相談される方の方が多い状況である」
委 員 長	「未成年後見人の要請についてはどの様に考えているか」
事 務 局	「横浜の方では、対応を始めたと聞いているが、日頃そのような相談は非常に少ない。相談は直接家庭裁判所に入るのはないかと思われる。今後の検討課題としていきたい」
委 員 長	「社協としての考えを検討しておく必要はあると思う」
谷 委 員	(重点事業 2 についての質疑)「地域福祉コーディネーターをなぜ育成するのか。何をやる人なのか」
委 員 長	「地域福祉コーディネーターは、コミュニティソーシャルワーカーのような専門職を指す場合と、住民のリーダー的役割を指す場合がある」
事 務 局	「本会としては、住民のリーダー的役割をイメージしており、地域福祉活動を進める中で、地域の人々を巻き込んで、地域の核になる様な人を育てて行きたいと考えている」
谷 委 員	「地域福祉コーディネーターを設置する場合、社協の窓口となる担当者はどの様にコミュニケーションを取っていくのか。今後の構想を聞かせて欲しい」
事 務 局	「本日の配布資料「事務局体制表」にもある通り、地域福祉推進担当は現在 5 地区担当制を敷いて進めている」

議 事 録

委員 長	委員長は以上で全ての報告及び質疑が終了したため、今年度の評価について意見を受け付けた。
田 部 井 委 員	「成果判断シートの評価と指標の関連性を示した方が良い。番号を付ける等の工夫が必要」
谷 委 員	「成果判断シートでは、CやD評価にはなりにくい。各取り組みの課題が分かりにくい様に思う」
事 務 局	「シートの目標は5年間の計画の内の1年目の目標とそれに対しての結果として示しているため、A、Bの結果が出ていないと今後につながらず、当然の結果ともいえる。シートの関連性は今後検討していきたい」
委 員 長	「前回の委員会で、一応の了解を得て、シートは作成されているところもあるので、今後シートの修正はあるにしても、今年度の評価をどの様にするか」
副 委 員 長	「1年目、2年目といった計画は立てていると言う事で良いか」
田 部 井 委 員	「5年間の計画全体のスケールで見た時に、現段階がどの程度の状態にあるのか、達成度合がパーセンテージで見える等分かると、評価が理解しやすいと思う」
事 務 局	「目標値の設定や評価については、分かりやすい数値化した評価と、成果や結果の質を問う評価があると考えている。数値結果が高ければそれで良いというものではなく、満足度調査等による質の判断も必要であるため、この5年間の計画の中では、最初は評価し易い数値的な取り組みから、次第に質を重視する取り組みになることが重要であり、そのことを考えながら今後5年間を進めていく必要があると考えている」
委 員 長	<p>「本日のまとめとして、今年度の評価については、事務局評価に基づく評価で良いか」</p> <p>委員から、事務局の評価判断基準に基づく評価を行う事で良いのではとの意見があがったため、委員長は、事務局に任せて良いかを委員に問い、委員の了解を得たため、事務局で基準に基づき評価を行うこととなった。</p> <p>事務局は、委員の方から出た意見で、P11のまとめシートに記載してある、「歳末たすけあいの配分を受けた事がない団体への PR</p>

議 事 録

閉 会	<p>方法」については、削除としていいのかを委員に再確認し、了解を得られたため、課題から削除することとした。</p> <p>これ以上委員からの意見もなく、本日の検討事項はすべて終了したため、小野委員長は、その他の事項について事務局に報告を求めた。</p> <p>事務局は、本委員会の議事録をホームページ等で公開して良いかを委員に確認し、委員から反対意見は無かったので、今後掲載していくことを報告した。</p> <p>次回の日程は、5月下旬から6月中旬とし、具体的な日程は、改めて通知することを報告した。</p> <p>以上ですべての内容が終了したため、高橋副委員長は、本日の審議協力に礼を述べ閉会とした。</p>
--------	--